



長塚圭史さま

たまには手紙で

9通目



白石加代子より

圭史様。

舞台の仕事に追われながら、手紙のやりとりをさせて頂くうち、気がつくともう風が涼しい。暑く盛りが始まったこの文通（私が少女の頃、男女が文通なんかしたら、ちょっと勘ぐられたものですよ。世間は、ケイシと私のごとをどう思っているのでしょうか……。へへ）も秋の訪れと共に、この回で終わりかと思うと一層淋しい気がします。今まで一人の男性とこんなに長く、おたよりし合ったことはありません。夫に手紙を書いたことは何度もありましたが、返事を貰った覚えがありません。思いや疑問や質問をぶつけると、さわやかで、明快で、温かいお返事が、すぐ返ってくる！ 長い生涯でこれ程心躍らせておたよりを待っていた経験がありません。ケイシおつかれさま。それからこういう場をセッティングして下さった方々、ありがとうございます。

過日、シアターコクーンに、松尾

再び集う日をたのしみに

長塚さんからの「源氏物語 宇治十帖」興奮させてもらいました。「語る」とはいえ「誰かを演じる」風になるであろうという僕の予想は華麗に裏切られました。原作、現代語訳、演出、加代ちゃん、四つの美が混じり合い、独特の色彩的世界が生み出されていました。

スズキさんの「女教師は二度抱かれた」の舞台を観に行き、終演後大竹しのぶちゃんの楽屋にお寄りしました。「寂しいのに、なぜか時々爆笑してしまうお話ね」と、ひとときり歓談した後、やはり私たち二人が係わった芝居の、「ビューティ・クイン・オブ・リナーン」に話題が移って、「再演したいわね」と盛り上がり、もちろんハグをして、千穂菜で夜の部がまだ残っているので、早々に失礼しました。「夜の部にはケイシが来る！」とお姉さんぶって言ってきましたが、なにか再演のこと話題に出ました？ でももし実現するとしても、劇場の都合や、出演者のスケジュールの調整などで、ずっと後になるでしょうね。それでも大事に温めていきたいという思いです。

スケジュールといえば、忘れてはいけないのは、この往復書簡が終わる頃に出発予定の、あなたのロンドン留学のことです。この経験は、これからケイシが切り拓いてゆく仕事

の、もう一つの新しい土台となってくれることでしょう。私の場合の海外経験は、ロンドンに蜷川幸雄さん演出の芝居で4回程。と、劇団に所属していた30歳から10年間、世界の主要な都市を延べ80カ所程も、公演して廻りました。当時の私は、体力の限り演じて、その土地の空気を少し吸っただけで帰国するという場合が多くて、でも得をしたと今でも思えるのは、大、中、小のいろんなタイプの劇場に「立った」ということでしょうか……。

ケイシがロンドンに着くと紅葉で、やがて厳しい暗い冬が来て、一斉に花が咲く春になって、夏、夏を私は知りませんが、とにかくじっくり他国の四季を味わえる。いいですね。

来年の3月、吉川英治の小説「宮本武蔵」を下敷に、井上ひさしさんが自由な発想で台本を書き下ろす「ムサン」（朝日新聞創刊130周年記念事業）に、藤原竜也さん、小栗旬さん、鈴木杏さんたちにまじって、私も出演しますが、これも蜷川さんの演出ですから、ロンドン公演がないとも言えません。留学中のケイシに観てもらえたら、どんなにうれいでしょう。お互いにみやげ話を胸いっぱい持って、再び寄り集う日をたのしみに、ひとまず、さよならね。

ケイシへ
加代ちゃん

(しらいし・かよ) 俳優
(ながつか・けいし) 劇作家